

第45号
令和5年
10月発行

すずか



農業委員の皆様

就任の御挨拶



日頃から、鈴鹿市農業委員会の活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、7月20日の市長招集総会におきまして、前任の堀田会長から会長職を引き継ぎました、鈴木でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

従来の農業委員会は、農地法をはじめとする各種法令に定められた事務を行う「農地を守るイメージ」が強くありましたが、平成28年度に農業委員会等に関する法律が改正され、「農地等の利用の最適化の推進」が農業委員会の必須事務となりました。

近年、農業を取り巻く情勢は、農業者の高齢化や後継者の不在等に起因します農業者の減少という問題がございます。今後、使われない農地が更に増えていく恐れがある中、「耕作されている農地を、耕せるうちに、耕せる人へ、次の農業者へのバトンをつなぐ」という取組である農地利用の最適化の推進が何より重要となってまいります。

そのため、農業委員、農地利用最適化推進委員及び各地区の地区委員が連携しまして活動する所存でございます。今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

主な内容

農業委員、農地利用最適化推進委員の紹介

P2-3

「人・農地プラン」から「地域計画」へ

P4

認定農業者になりませんか 等

P5



農業委員・農地利用最適化推進委員の紹介

任期満了に伴う改選により新体制がスタートしました。令和5年7月20日午前に農業委員任命式が行われ、その後開催された第1回総会にて会長及び職務代理者が選任されました。同日午後には農地利用最適化推進委員の委嘱式が行われました。

また、それぞれ総会・委嘱式終了後に三重県農業会議 佐野課長を講師として農業委員会制度・農地法についての研修会が行われました。

農 業 委 員 (19名)

会 長	すず き ひいず 鈴木 秀
会長職務代理者	もり た あきのり 森 田 昭 則

氏 名	住 所
まえ だ かずゆき 前田 和幸	一ノ宮町
ま ざき たか し 間崎 孝至	若松北二丁目
きりゆう ごろう 桐生 五郎	白子二丁目
あつ み とし お 渥美 利男	徳田町
うち だ みつはし 打田 光橋	国府町
うらかわ ひろ み 浦川 広巳	汲川原町
やまなか すすむ 山中 進	三日市一丁目
さか た やすひさ 阪田 泰久	平田本町二丁目
いちかわ まさゆき 市川 正之	上田町
わたなべ しょういち 渡部 正一	三畑町

氏 名	住 所
もり た あきのり 森田 昭則	伊船町
ひら こ しん 伸 平子 伸	国府町
いなだ としみき 稲田 利幹	高岡町
うえ だ こ 上田みね子	山本町
とよ だ え み こ 豊田栄美子	広瀬町
おお の く み こ 大野久美子	椿一宮町
こばやし と し き 小林登志樹	西条五丁目
すず き ひいず 鈴木 秀	稻生西一丁目
すず き ひろゆき 鈴木 啓之	西庄内町

農 業 委 員 の 主 な 業 務

- 農地の権利移動の許可及び農地転用の審査業務
- 農地利用最適化推進委員と連携した、農地利用の最適化の推進（担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進）
- 地域計画策定のための地域の農業者等の話し合い等への参加

農地利用最適化推進委員（25名）

担当地区	氏 名	住 所
国府＊	お ぎ 尾 崎 直 司	国府町
庄野＊	す とう 須 藤 善 信	庄野東一丁目
加佐登＊	す ず き 鈴 木 伸 弥	広瀬町
牧田＊	きたがわ 北 川 ま こと 誠	甲斐町
石薬師＊	くわはら 桑 原 は っ お 初 雄	石薬師町
白子＊	お が わ 小 川 え い じ 英 二	白子一丁目
稲生＊	ひ ぐ ち 樋 口 の り つ ぐ 典 次	稲生塩屋一丁目
飯野＊	わたなべ 渡 邊 よ し は る 芳 治	飯野寺家町
河曲＊	さ か い 酒 井 き よ は る 清 春	野辺一丁目
一ノ宮＊	なかむらそう 中 村 宗 太 郎 た ろ う	長太旭町六丁目
箕田＊	おお た 太 田 ま さ な お 政 直	南堀江一丁目
玉垣＊	こ とう 後 藤 ひ ろ ひ で 博 英	土師町
若松＊	さん だ 三 田 ひ さ の り 久 憲	南若松町

担当地区	氏 名	住 所
神戸＊	い とう 伊 藤 ま さ よ し 雅 良	神戸三丁目
栄＊	な か い 中 井 ひ ろ か ず 博 万	五祝町
天名＊	いちかわ 市 川 の ぶ ひ ろ 信 博	御菌町
合川＊	ま ゆ み 真 弓 か ず ひ ろ 和 寛	徳居町
井田川＊	おおつか 大 塚 か ず ま 和 馬	西富田町
久間田＊	く ぼ た か ず ゆ き 久 保 田 一 幸	下大久保町
椿＊	す み た 住 田 ひ ろ し げ 弘 重	山本町
深伊沢＊	や ま の 山 野 と し ふ み 敏 文	深溝町
鈴峰＊	も り た 森 田 ひ で き 秀 樹	伊船町
庄内＊	お お い し 大 石 て つ や 徹 也	西庄内町
合川(応募)	の だ 野 田 や す み 保 己	江島町
天名(応募)	よ ね か わ 米 川 な お き 直 樹	徳田町

＊地区委員会会長を兼務

農地利用最適化推進委員の主な業務

- 農地等の利用の最適化の推進（担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進）に関する現場活動
- 地域計画策定のための地域の農業者等の話し合い等への参加

任期は令和5年7月20日から令和8年7月19日までです。

表 彰

長年にわたりご尽力いただきありがとうございました。

令和5年7月20日に、鈴鹿市農業委員及び農地利用最適化推進委員として多年にわたり職務を精励され、任期満了により退任された4名の方々に、市長より感謝状が贈呈されました。

長谷 康郎 氏

堀田 長久 氏

西村 伸一 氏

早川 則数 氏

『全国農業新聞』を読みませんか

◎農家のための農業経営や最新情報を発信しています

◎発行日は毎週金曜日（月4回） ◎購読料は1ヶ月700円（送料込み）

★お申込みは農業委員会事務局まで



農林水産課からお知らせ

「人・農地プラン」から「地域計画」へ

令和5年4月の「農業経営基盤強化促進法」の改正により、これまで「人・農地プラン」として各地域で策定してきたプランは、「地域計画」と名称を変えて、令和7年3月までに法律で策定が義務付けられました。

人・農地プランとは

農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来の在り方などを明確化し、市町村により公表するものです。



地域計画とは

人・農地プランを基礎として、市町村が、農業者等の話し合いを踏まえて策定する、地域の将来(概ね10年後)の農地利用の姿を明確化した計画のことです。

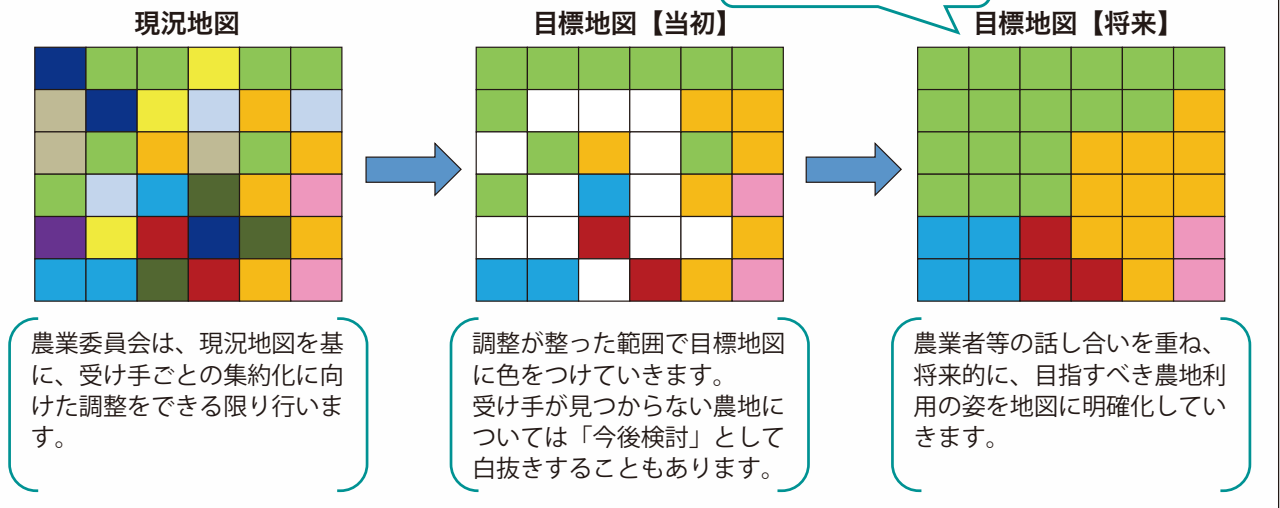
地域計画では、農業を担う者ごとに利用する農用地等を表示した地図(目標地図)を作成します。

目標地図とは、地域の10年後の姿として、農地を集約し1筆ごとに利用者を明確化した地図のことです。

地域の農業者の意向等を踏まえて話し合いを重ね、随時変更しながら徐々に完成度を高めていくものです。

【目標地図のイメージ】

徐々に完成度を
高めていきましょう



地域計画は、国の指針により2年間（令和5年から令和7年3月末）で策定を行うことになっています。地域計画策定までのスケジュールは以下のとおりです。

【地域計画策定までのスケジュール】

取り組み事項	2023年度（令和5年度）				2024年度（令和6年度）			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
① 出し手・受け手の意向把握								
② 目標地図の素案作成								
③ 地域計画案の取りまとめ・策定								

認定農業者になりませんか

認定農業者とは、農業経営の改善を行うための「農業経営改善計画」を作成・提出し、三重県や鈴鹿市に認定された方のことです。計画を作ることで現在の経営状況を見つめ直すことができ、認定後は各種支援を受けることができますので、ぜひ、ご検討ください。

認定農業者のメリット

- ◆経営所得安定対策
(ゲタ対策・ナラシ対策)
 - ◆制度資金の金利負担軽減措置
 - ◆農業経営基盤強化準備金制度
 - ◆農業者年金の保険料支援
- ※各支援には要件があります。



認定農業者の申請の流れ

農業経営改善計画の作成
農業者自らが、5年後の目標とその達成のための取組内容を記載

市へ申請

市が認定

認定農業者

詳しくは鈴鹿市産業振興部農林水産課まで
電話：059-382-9017

農業委員会活動報告

農地の利用状況調査（農地パトロール）を実施しました

7月～8月にかけて、市内全23地区の地区委員会が中心となり、農地の利用状況調査（農地パトロール）を実施しました。

調査の目的は、耕作放棄地の発生防止・解消に向けての取組を行い、農地を守っていくことです。

農業委員会では、毎年、農地の利用状況調査（農地パトロール）を行い、耕作放棄地の早期発見・是正指導に努めています。



農地を適切に管理しないまま放置すると、雑草の繁茂、病虫害の発生、有害鳥獣の進入・繁殖、ゴミの不法投棄や火災の原因になり、周辺の農地はもとより、周りの生活環境に悪影響を及ぼすことがあります。

定期的な草刈り等の適切な管理をお願いします。また、今後、ご自分で管理ができなくなると思われる場合は、一度、農業委員、農地利用最適化推進委員、農業委員会地区委員にご相談ください。



農業委員会からのお知らせ

「農業者年金」に加入しませんか

税制面で、優遇措置があります



①その年に支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象
支払った保険料が全額控除になり、その分課税対象所得が下がります。
経営主が支払った同一生計の配偶者や後継者の農業者年金の保険料も
経営主の所得から控除できます。

②運用益が非課税

運用益が非課税で、その分が年金原資として積み立てられます。

③受け取る年金は、税制上、公的年金等控除の対象

★詳しくは農業委員会事務局又はJAまで



●農作業後の道路への落土について

コンバインなど農機具についた土は、道路に出る前に、ほ場内で取り除き、道路へ落とさないようにしましょう。

道路に落ちた泥や土のかたまりは、道路を汚すだけでなく、歩行者や自転車の通行の妨げになり、車の走行においても大変危険です。



●ゴミを捨てないでください

農地や水路にごみがあると、農作業に支障が生じるほか、農業機械の故障や作業者のケガ、水路の流れが悪くなり環境悪化の原因になります。また、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により不法投棄は禁止されています。



編集後記



今年の夏は例年になく猛暑日が続きましたが、紅葉の季節が近づいてきました。

改選により令和5年7月から新たな体制でスタートとなりました。令和7年3月末までの地域計画の策定のため、目標地図の素案作成に取り組んでいきたいと思ひます。